

和歌山県猟友会  
設立六十周年記念式典



一般社団法人

和歌山県猟友会

開催日：令和5年8月5日(土) 13:00～

開催場所：ホテルアバローム紀の国



## 記念式典・祝賀会 次第

### 【記念式典】 13:00～

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 感謝状・表彰状贈呈
  - (1) 和歌山県知事感謝状
  - (2) 大日本猟友会会長表彰
  - (3) 和歌山県猟友会会長表彰
  - (4) 農林水産部長感謝状
  - (5) 和歌山県猟友会会長感謝状
4. 表彰状感謝状受領者代表謝辞
5. 来賓祝辞
6. 来賓ご紹介
7. 祝電披露
8. 閉会のことば

### 【記念講演】 14:15～

演題 「農人と森の番人プロジェクト ～

田辺市上芳養日向地区における獣害対策 ～」

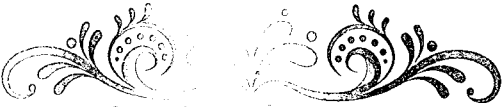
講師 株式会社日向屋代表取締役

岡本 和宣 氏

### 【祝賀会】 15:30～

1. 開宴の挨拶
2. 乾杯
3. 祝宴
4. 閉宴





和歌山県猟友会設立 60 周年記念式典プログラム会長挨拶



一般社団法人和歌山県猟友会  
会長 尾上 貞夫


狩猟や有害鳥獣の捕獲は、元々は狩猟愛好家のグループで実施されていましたが、本県では大正 12 年に猟友会の前身である「和歌山県連合猟友会」が設立されました。

この組織が法人化され、昭和 38 年 11 月に「社団法人和歌山県猟友会」が誕生し、今年で 60 周年を迎えました。

この記念すべき節目の年を迎えることができましたのも、組織の基礎を築き、育み、発展に尽くされた歴代会長をはじめ、会員の皆様方、関係各位のご努力のたまものと心から感謝申し上げます。

和歌山県猟友会は、これまでも狩猟の担い手の育成や安全狩猟の推進、野生鳥獣被害対策等に取り組み、狩猟という趣味の領域を越え、地域の住民や自然環境、農林水産業を守る社会貢献活動にも取り組んできたところです。

これからも、先人達が築いてきた数々の歴史や伝統を胸に刻みながら、狩猟の魅了発信や新しい捕獲技術の導入などにより、次代を担う人材の育成に努めるなど、より一層の努力をしてまいります所存でございます。



## 一般社団法人和歌山県猟友会の歩み



- 昭和38年 社団法人和歌山県猟友会設立8支部制が敷かれる。
- 昭和46年 国は環境庁を設置し、鳥獣行政は林野庁から環境庁へ移る。県は自然保護課を設置し鳥獣行政を担当した。
- 昭和56年 県の機構改革に伴い、自然保護課から農林部林業課に戻った。
- 平成8年 県の機構改革に伴い、林業課から生活文化部自然環境課に移管された。
- 平成12年 県の機構改革に伴い、生活文化部自然環境課から環境生活部自然環境室へ移管された。
- 平成18年 県の組織の見直しにより、振興局林務課から健康福祉部衛生環境課に移管された。
- 平成20年 鳥獣保護行政は環境生活部に残し、狩猟及び有害鳥獣捕獲行政については、農林水産部に移管された。
- 平成22年 8月の通常総会において、会長に尾上貞夫氏就任。
- 平成23年 4月農業環境・鳥獣害対策室に名称変更。
- 平成24年 7月に一般社団法人和歌山県猟友会へ移行。
- 平成25年 法人設立50周年記念式典を開催する。
- 平成27年 指定管理鳥獣捕獲等事業(夜間銃猟)を実施する。
- 平成30年 猟友会に青年部・女性部を創設する。
- 令和2年 野生イノシシ経口ワクチン散布事業に参画する。
- 令和4年 尾上会長が再任され、大日本猟友会副会長に就任する。

|        |     |                    |
|--------|-----|--------------------|
| 現在の会員数 | 第一種 | 1, 178人            |
|        | 第二種 | 27人                |
|        | わな  | 1, 247人            |
|        | 計   | 2, 454人 (5.3.31現在) |





# 和歌山県知事感謝状

永年にわたり猟友会の運営や事業推進に尽力され、有害鳥獣捕獲の取り組みを県全域に展開されるなど野生鳥獣被害対策の推進に多大な貢献をされた会員に贈られます。

## 功 勞 者 感 謝 状

(敬称略)

水浦 健 (和歌山)

向江 信夫 (海草海南)

中谷 公隆 (紀の川岩出)

中西 宏彰 (伊都)

小藪 貴功 (有田)

古川 明良 (日高)

田嶋 由隆 (日高)

小倉 健吉 (西牟婁)

峯 巖楠 (西牟婁)

藪根 直次 (東牟婁)



# 農林水産部長感謝状

多年にわたり地域の有害鳥獣捕獲に従事し、狩猟安全対策や鳥獣保護対策に尽力された会員に贈られます。

## 功勞者感謝状

(敬称略)

加治 民弘 (和歌山)

中嶋 門志 (和歌山)

斉藤 武己 (海草海南)

上野尻宗央 (海草海南)

笠松 貴 (紀の川岩出)

児玉 壽則 (紀の川岩出)

下迫 榮造 (伊都)

野間 規由 (伊都)

生駒 純信 (伊都)

神山 安生 (有田)

皆瀬 弘和 (有田)

津村 満男 (日高)

中井 國臣 (日高)

小山 富久 (日高)

友瀨 文夫 (西牟婁)

谷本 守章 (西牟婁)

畠中 淳一 (西牟婁)

上野 泰義 (東牟婁)

谷口 寿雄 (東牟婁)

速水 邦勇 (東牟婁)

# 大日本猟友会会長表彰

多年にわたり和歌山県猟友会の役員を務め、有害鳥獣捕獲の取り組みや狩猟事故の防止に尽力し、会の発展に貢献した会員に贈られます。

## 功 勞 者 表 彰

(敬称略)

瀬川ヒデキ (和歌山)

中西 正晴 (和歌山)

岡本 全弘 (海草海南)

北嶋 利治 (海草海南)

赤井 正良 (紀の川岩出)

矢川 政巳 (紀の川岩出)

國部二三男 (紀の川岩出)

谷澤 英治 (伊都)

前 富雄 (伊都)

大塚 泰洋 (伊都)

松原 弘 (有田)

藤田 治弘 (有田)

下西 千秋 (日高)

堀江 才二 (日高)

藤田 吉宏 (日高)

中尾 正敏 (西牟婁)

吉田 進 (西牟婁)

寺本 一 (西牟婁)

瀧本 守 (東牟婁)

青木 勇 (東牟婁)

和田 幸久 (東牟婁)

# 和歌山県猟友会会長表彰

永年にわたり和歌山県猟友会の会員として安全狩猟及び鳥獣被害の防止対策に寄与された会員に贈られます。

## 功 労 者 表 彰

(敬称略)

|               |               |
|---------------|---------------|
| 井谷三千次 (和歌山)   | 乾 修 (和歌山)     |
| 岡本 茂 (和歌山)    | 安井 正好 (和歌山)   |
| 川本 重次 (海草海南)  | 山本伊勢夫 (海草海南)  |
| 上北 浩章 (海草海南)  | 藤井 寛 (紀の川岩出)  |
| 殿田 勝美 (紀の川岩出) | 児玉 之良 (紀の川岩出) |
| 中浦 敏明 (紀の川岩出) | 森本 政信 (伊都)    |
| 中村 孝雄 (伊都)    | 乾 幸八 (伊都)     |
| 後口 明 (伊都)     | 小迫 久嗣 (伊都)    |
| 片山 大二 (有田)    | 中尾 健次 (有田)    |
| 小畑 肇 (有田)     | 大瀧 弘 (有田)     |
| 高尾 和行 (日高)    | 山田 洋三 (日高)    |
| 崎 繁一 (日高)     | 向井 達 (日高)     |
| 貝野 村男 (日高)    | 葉糸 脩佑 (西牟婁)   |
| 川瀬 清美 (西牟婁)   | 中川 親治 (西牟婁)   |
| 井溪 正良 (西牟婁)   | 榎木 渉 (西牟婁)    |



河邊 慎吾 (東牟婁)

松本 治 (東牟婁)

下 忠文 (東牟婁)

平 拓 (東牟婁)

西 正人 (東牟婁)

## 和歌山県猟友会会長感謝状

和歌山県猟友会において青年部・女性部を立ち上げ、役員として担い手の育成や広報活動を展開し会の発展に寄付された会員に贈られます。

### —— 功 勞 者 感 謝 状 ——

(敬称略)

溝部名緒子 (和歌山)

北上 堯茂 (紀の川岩出)

森 誠 (有田)

西田 早矢 (日高)

田中 寛 (東牟婁)

畦智せつ子 (東牟婁)

# 安全狩猟

一般社団法人 和歌山県猟友会

- 1 常に法令を守り、安全を全てに優先すること。
- 2 事故は起こさないという信念を持つこと。
- 3 思い込み、直感による即断をせず、獲物の姿を見るまで引き金を引かないこと。
- 4 獲物が見えないときは、「人かも知れない」と思うこと。
- 5 事故を起こしてしまえば、取り返しがつかないことを思うこと。
- 6 周囲の安全を確認すること。
- 7 帽子・ベストを着用すること。
- 8 射撃するとき以外は弾を抜くこと。
- 9 心の余裕を持ち、狩猟を楽しむこと。

令和5年8月6日

和歌山県クレー射撃協会

理事長 原田 敬司 様

一般社団法人和歌山県猟友会  
会 長 尾上 貞夫

和歌山県猟友会法人設立60周年記念式典の御礼について

8月5日に開催いたしました、当会法人設立60周年記念式典及び祝賀会に、公私とも大変ご多忙のところご臨席を賜り、花を添えていただきまして誠にありがとうございました。

おかげをもちまして盛会裡のうちにすべて終了することができました。

当会は、この60周年を契機に多くの課題を乗り越え、役職員並びに各会員がさらなる発展を目指していく決意であります。

今後も、より一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げ御礼とさせていただきます。